



●市内の出来事や、頑張っている皆さんの姿を紹介するコーナーです。



●12月4日 文化会館
 渡辺真知子さんが
 燕市で熱唱！

今年デビュー 45 周年を迎える渡辺さんの歌声を聞こうと 400 人を超えるファンが集結。迫力ある生バンドの演奏やヒット曲の数々に会場の熱気も最高潮でした。



●12月11日 文化会館
 東京ヤクルトスワローズの
 長岡・内山両選手が来燕！

セ・リーグ連覇を成し遂げた東京ヤクルトスワローズの長岡秀樹選手、内山壮真選手が来燕。トークショーでは、今シーズンを振り返り、来期の躍進を語りました。



●11月20日 燕三条地産センター
 二十歳の決意

昨年3月から延期となっていた燕市成人式がこの度行われました。532人が出席し、会場は同級生と久々の再会を喜ぶ新成人たちで賑わっていました。



●12月3日 中央公民館
 「八丁紙」ついでいます

お正月に鏡餅などに飾る「八丁紙」を作る体験教室を開催。児童は真剣に作業を進め、1時間程度で完成。新年を迎える準備はバッチリです！



今月のつばめっ子

●元気なつばめの子どもの様子をお届けします！



オリンピックが子どもたちにアドバイス！ ゆめみらいスポーツ教室（陸上競技）を開催

●11月26日・27日 分水総合体育館

東京 2020 五輪に出場した飯塚翔太さんをはじめ5名をお招きし、陸上競技をしている市内の小中学生を対象に講習会を開催。普段のトレーニングとは違うメニューや正しいランニングフォームなどの解説に耳を傾け、早速実践していました。



なるほど！長善館

長善館史料館 ☎0256・93・5400

●1833年に創設された私塾「長善館」。革新的な教育を行い、約80年の運営で約1000人の塾生を輩出しました。

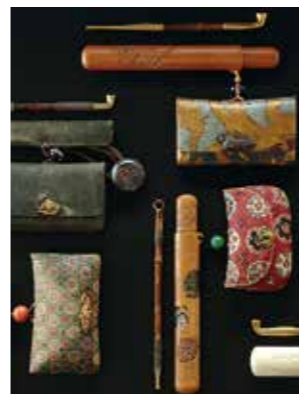


▲文臺は松陰のひとりとなりや辞世の句を解説している（所蔵：彌彦神社）



▲吉田松陰が牢屋の主（粟生津出身の僧侶）に贈った「獄中詩」（所蔵：彌彦神社）

松下村塾を主宰した吉田松陰は21歳の頃、東北を旅し岩室、弥彦を訪れた記録があるが燕を訪ねたとの記録は残っていない。長善館を訪ね、文臺と会っていただろうと心が躍る。安政の大獄で収監された牢屋の主が粟生津生まれの僧侶で、世話になったと松陰は「主」にお礼の詩を贈っている。軸装された松陰の獄中詩の下には文臺の解説書が貼られている。そこで松陰の辞世の句を紹介し「忠孝を全うした人と称賛している。粟生津の主を紹介して一つの軸でふたりの心が結びついていったのは驚きである。」



▲丸山コレクション（キセル）

燕市産業史料館
 ☎0256・63・7666
 ■入館料
 大人400円、高校生以下 100円
 ※団体割引あり
 月曜日休館（祝日の場合は翌平日休館）

燕の喫煙具製造は江戸時代から始まったとされ、当館では数多くのキセルを鑑賞できます。本館では、燕で作られたキセルが展示され、別館矢立煙管館では、燕出身の実業家丸山清次郎がコレクションした全国でも屈指のキセルコレクションが堪能できます。とくに、明治・大正期に製造されたキセルは、美術的にも高度な技術と、素材もこだわり抜いた逸品が用いられており、観れば観るほど、当時の世界観に引き込まれます。新年早々、キセルを鑑賞して運気を上昇させてみてはいかがでしょう。

今月の一品

キセルは縁起物、産業史料館で初詣

初夢で見ると縁起の良いもの。一富士二鷹三茄子四扇五タバコ六座頭...といわれています。一説では、それぞれ対応しており、富士と扇は末広がりで子孫や商売などの繁栄を。鷹とタバコの煙は上昇するので運氣上昇を。茄子と座頭は毛が無く、「毛がない」怪れない」との連想から家内安全を意味するとされています。



大河津分水100年に向けて 大河津分水で繋がる地域

大河津分水通水100周年事業の集大成として2つの事業が実施されました。1つは分水サミットです。信濃川流域の9つの学校の子どもたち総勢37人が集結し、川の学習成果や川に足を運んでもらう方法などを発表いただきました。燕市代表の分水小学校の皆さんは、大河津分水クイズが記された「クイズチケット」を会場配布。クイズに答えて信濃川大河津資料館に持参すると記念グッズと交換できるという、発表を通り越して、大河津分水で地域を繋げることを早速実践いただきました。



▲会場で学習成果を発表する分水小学校の子どもたち

もう1つは記念シンポジウムで、9つの自治体の市町村長が一堂に会し、防災や賑わい、親水の視点から、川にまつわる取り組みや展望について意見を交わしました。燕市からは、分水おいらん道中や燕さくらマラソンの紹介をしました。先人たちの想いを受け継ぎながら川と向き合う取り組みを皆さんと連携しながら進めたいとお話しをさせていただきました。

大河津分水を通じて広がる流域の連携。その役割はますます重要となっていくようです。

地域おこし協力隊の奮闘日記 vol.58



こんにちは！ 移住定住担当の森です。

昨年11月に県主催の移住フェア「いっちゃんニイガタ」が東京都楽町の東京交通会館で行われました。燕市は金属加工が有名ですが、実際どんなまちなのか知らないという人に、移住した1人として燕市をPR！ また、移住者交流会に参加してくれた人から出た意見もご紹介してきました。

郊外の自然と都会的なところがあることや、降雪量が少なく暮らしやすいという燕市の良いところを県外の人たちに発信するとともに私自身も燕市の魅力をもっと見つけていきたいと思っています。そして、移住に向けたお手伝いや、より多くの人に燕市に住んでみたいと思ってもらえるようにこれからも頑張ります！



燕市地域おこし協力隊
 森 瑞希